

沼島の景観、「島の宝100景」に

国土交通省が選定する「島の宝100景」が4月10日に発表され、南あわじ市から「ダンジリ海に突入―沼島八幡神社春祭」が選ばれました。



▲海に飛び込む「ダンジリ」観一を募集。全国的に計547通の応募があり、「釣りバカ日誌」などの著者で知られる北見けんいち氏ら

海に飛び込むダンジリ採用

この「島の宝100景」では、全国の離島ファンなどから「島の暮らしや人々の営みがわかり、「島の宝」として次世代に引き継いでいきたい、活かしたい景観」を募集。全国的に計547通の応募があり、「釣りバカ日誌」などの著者で知られる北見けんいち氏ら7人の選定委員によって決定されました。選ばれた島の宝は、毎年5月3日と4日に行われる沼島八幡神社春祭をテーマにしたもの。祭りが最高潮に達した頃、だんじりが勢いよく海へ飛び込む様子を捕らえた写真とコメントが採用されました。選ばれた100景は、今後、観光PRなどで使われます。詳しくは「島の宝100景」ホームページへ <http://www.mlit.go.jp/crd/chirit/>

市内の産業振興に期待

産業振興協会から4人派遣



▲マーケティング戦略室に派遣された3人

マーケティング戦略室（商工観光課内）とバイオマス利活用担当（農業振興部内）がで、5月1日、(財)南あわじ産業振興協会に4人が採用されて市に派遣されました。派遣された4人のうち3人は、マーケティング戦略室で勤務。①瓦産業の販路拡大や推進業務②農商工と観光の連携事業の推進業務③観光事業の推進業務に各1人が担当につき、取り組んでいます。



▲玉ねぎ残さで作られた炭の袋詰め作業

また、農業振興部に派遣された1人は、バイオマス利活用センターでの業務に加え、玉ねぎ残さから出来上がった炭の販路拡大など、バイオマスの利活用業務を担当しています。

2009 功労者表彰

人権擁護委員表彰 2人
兵庫県功労者表彰 6人

人権擁護委員表彰

長年にわたり、人権擁護委員を務められた次の方々に、5月22日、表彰が贈られました。(順不同、敬称略)

- ◆飯田 弘子 (松帆) 法務省人権擁護局長感謝状
- ◆飯田 弘子 (松帆) 近畿人権擁護委員連合会長表彰
- ◆中嶋 長史 (松帆) 飯田さんは、平成11年10月から、中嶋さんは、平成15年1月から、人権擁護委員を務められ、地域の中で人権保護と人権思想の啓発等を推進しています。

兵庫県功労者表彰

県政の推進や公共の福祉などに功労のあつた方々に「兵庫県功労者表彰」が贈られます。(順不同、敬称略)

◆蓮池 洋美 (福良)

議会議員として、21年にわたり住民福祉の向上、町の活性化及びスポーツの振興に貢献。市議会では初代議長として卓越した識見と行動力で議会の基盤を作るなど地方自治の振興に尽力されています。

◆芝 壽浩 (福良)

長年にわたり清掃奉仕活動や住民福祉活動、防犯・防災活動など、積極的に自治会活動を展開。初代市連合自治会長を務められ、市防犯協会や市交通対策協議会の活動にも尽力されています。

◆小林 昇 (潮美台)

こころ豊かな推進専門員として地域活動に従事。また、「子は宝」を理念に社会教育活動にも貢献し、わんぱく塾やボイススクアウトなど子どもの体験活動を展開し、多くの児童をサポートしています。

◆齋藤 勝巳 (広田)

地域建設業界のリーダーとして、長年地域商工業の振興発展のため各種事業を積極的に推進。淡路瓦の振興策では、JAPANブランドの承認を受け、海外への販路開拓を図るなど、商工業の振興に尽くされています。

◆小磯 富男 (阿那賀)

丸山漁協と阿那賀漁協の合併を実現させるなど漁協経営の安定化に貢献。また、ワカメ養殖で、高品質のワカメづくりに取り組み、産地ブランドの確立などに大きく寄与されています。

◆齋藤 博万 (八木)

県営成相・北富士ダムの建設に大きく貢献。また、成相土地改良区理事長に就任以来12年間、土地改良区の運営に尽力され、組合員の生産基盤、生活環境の整備のために貢献されています。



デジタルテレビを購入した人へ

ケーブルテレビに加入しているが、デジタル放送が視聴できないというお問い合わせが増えています。原因は宅内配線の一部がデジタル放送の場合、映

電波障害が発生しています！

春先から秋にかけて発生し、電波の乱反射によりテレビの特定のチャンネルが1日数回乱れる現象です。アナログ放送の場合は、映りが悪くなる程度ですが、デジタル放送の場合は、映らなくなることがあります。現在、テレビ局が中継局の改修を進めており、順次解消予定です。もし発生した場合、アナログ放送に切り替えてご視聴ください。

円さんさんネット ☎43・2345

さんゆ〜館の入浴券等の使用期限

さんゆ〜館の運営は現在、民間の指定管理者に委託しています。そのため、19年度以前に発行された「回数券・入浴券・招待券」の使用期限を来年3月31日までとさせていただきます。※回数券は1回使用して頂くと、残数分は新しい入浴券と交換となります。 ☎さんゆ〜館 ☎43-3939 健康課 ☎44-3004

備蓄食料を寄贈

大規模災害の発生に備え、5月14日、淡路三原ロータリークラブ(村上安弘会長)から、障害者用の備蓄食料が寄贈されました。寄贈は今年で3回目。即席みそ汁や魚の缶詰等5品目で、約200食分の食料が緑防災センター(倭文支所)に保管され、災害時に活用されます。

ふれあい市長室

若者の活力と連帯に感動！

南あわじ市長 中田勝久

淡路だんじり祭は見ごたえがあり、自治会をはじめ各種団体による実行委員や各祭礼団の皆様のご協力に圧倒されました。先人達が築き上げた、修繕を重ね守り続けてきた檀尻を自治会や祭礼団員の方々が苦勞し、練習を重ね実現したすばらしいお祭りでした。保育所・幼稚園児200人の竹太鼓や中高生を含む太鼓衆が勢ぞろいした迎え太鼓と、檀尻28台の総太鼓の迫力には感動させられました。また、企画内容は、祭礼団長の代表者や経験者が運営委員会を設立して長い間議論をし、立案調整されたと聞いております。

やはり進化するイベントや事業は、若者のアイデアと迫力、熟年者の温かいお支え、市民の方々のご支援やご声援があつてこそ実現するものだと痛感しました。将来、この祭りが淡路島外にも知られ、より多くの方が来場されることを期待しております。ふるさとづくりや地域活性化も同様と考えます。あらゆる市民が参加し、共に考え一

体的に行動することによって大きな事業が実現したり、成長発展していくものと改めて考えさせられました。この度、悲願の低地対策では、国や県の予算が計上され三原川水系河川整備計画が本格的に動き始めます。永年の努力が実り、本当に嬉しく思っております。国や県と綿密な連携を図り、一つ一つの成果を生み出し、計画実現のため懸命に努力します。しかし、国や県に計画を提出しても、抜本的な改善策である河川改修やほ場整備、用排水路などの大事業で、計画反対や用地提供など基本的体制が整わなかったり、地元が一丸となつて執念ともいえる取り組みなしでは事業の実現はできません。財政難の折、合意できた地域が優先され、地元調整ができない地域は、後回しか予算がつかないという状態です。市民の皆様におかれましては、子孫のために地域で建設的な議論を重ね、事業実現に向けて格段のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。